



## 総選挙当日・神奈川県本部第19回大会開催 台風21号の影響で大荒れの天候を突いて

建交労神奈川県本部は10月22日第19回定期大会を横浜開港記念会館で開催しました。

この日は、安倍政権が森友・加計学園疑惑などの追及から逃れるために臨時国会冒頭で所信表明も行わずに憲法違反の国会解散を強行したことによって実施された総選挙投票日でもありました。また、超大型の台風21号が九州の南海上を本州に向けて接近し、その影響で強い風雨に見舞われるなかでの大会開催となりました。神奈川県南支部からは県本部役員の3名（斎藤支部副委員長、大島支部書記長、清野支部執行委員）と佐藤委員長をはじめ



主催者挨拶をする伊藤県本部委員長

とする大会代議員10名が出席し大会成立に貢献しました。

斎藤・県南支部副委員長の開会あいさつではじまった大会は、佐藤・県南支部委員長と鉄道本部・佐々木氏の議長によって議事が進行されました。主催者を代表して挨拶を行なった伊藤東一県本部委員長は、憲法をめぐる重要な総選挙当日の大会開催にあたって政治闘争の重要性に触れるとともに強大な組織建設での奮闘を呼びかけ



挨拶する相木副中央執行委員長

ました。続いて来賓あいさつに立った建交労中央本部の相木副委員長と神奈川県労連の住谷副議長からも安倍政権を退陣に追い込む市民と野党の共闘に結集することの重要性と組織の拡大強化に向けた奮闘を強く呼びかけられました。

大会はその後、高橋県本部書記長によって2017年度運動方針案と財政報告、予算案などが丁寧に提起されて昼食休憩に入りました。

午後からは一般討論に入り、まずは9月に行われた



挨拶する住谷神奈川労連副議長

中央本部の定期大会で組織拡大最優秀賞を受賞したダンプ支部の稲川代議員が発言、神奈川ダンプ支部の現状と課題・決意表明などを行ないました。

つづいて、県南支部の三昭運輸分会から北川分会書記長が発言に立ち、経営側の団交拒否や不誠実団交などの不当労働行為に抗して分会の団結を強め、たたかいを次の段階へと引き上げる準備を着実にすすめている状況を報告しました。その後、鉄道本部の代議員からは鉄道本部の現状と課題について発言がありました



方針を提案する高橋県本部書記長

# 方針案を満場一致で採択し新体制を確立！ 大島氏の閉会挨拶・清野氏のがんばろうで閉会

発言の最後は県南支部の赤羽代議員がおこない、神奈川県本部のなかまのキャンパで8月7日～9日にかけて開催された原水爆禁止世界大会 in 長崎に参加した内容を報告するとともに県南支部の組織建設とトラック大運動などについて発言しました。

方針案の採決では、すべての議案が満場一致で採択され、続いておこなわれた役員選挙もすべての候補者が信任されました。閉会挨拶をおこなった大島副委員長（支部書記長）は、情勢を攻勢的に切りひらくたかいに打って出ようと訴え、「団結がんばろう」の発声は清野執行委員（支部執行委員）がおこなって県本部第19回定期大会を成功裏に閉会しました。



閉会挨拶をおこなう大島副委員長

# 国民は総選挙で改憲を支持した訳ではない 9条改憲許さない全組合員参加のたたかいを

10月22日に投票が行われた総選挙の結果は、自民党が公示前の284議席を確保して単独過半数を維持するとともに与党公明党の29議席（公示前から5議席減）と合わせて全議席数の3分の2を超える議席を獲得しました。この結果、安部総理は国民の支持を得たとして改憲に向けた動きをいっそう加速させています。

しかし、国民は決して安部改憲を認めたわけではありません。現に投票日直前にマスコミ各社が行った世論調査によれば安倍内閣の支持率は日経37%、朝日38%などとなっています。にも拘わらず自民党が多数議席を獲得できた背景にあるのは、第一に自民党を補完する新たな勢力・希望の党が突如結成されて野党共闘に分断を持ち込み民進党が野党共闘から脱落したこと。第2は、自民党の比例得票は33%（全有権者比では17.3%）に過ぎないのに獲得した議席は61%という結果に示された大政党に圧倒的有利な小選挙区制度があります。これに加えて53%台という戦後2番目に低い投票率が自民党を支える結果につながっています。一方、安部改憲は許さない！安部政権の打倒をめざす勢力は公示前の38議席から69議席への大きく前進しています。

ここに確信をもって憲法9条改悪を許さないたたかいに全力をあげましょう。

# 被爆者が求める核兵器廃絶署名を徹底しよう

国連が7月7日に歴史上初めて「核兵器禁止条約」を採択したのにつづき核兵器の禁止を訴える国際NGO「I・CAN」が2017年のノーベル平和賞を受賞しました。国際社会は「核兵器のない世界」の実現に向けて大きく前進をしています。しかし、安部政権は国際社会の願いに背を向けて、アメリカなどに同調し核抑止力論を主張して「核兵器禁止条約」に反対しています。建交労神奈川県南支部は、被爆者が命をかけて「核兵器を禁止し廃絶する条約」を訴える「ヒバクシャ国際署名」を飛躍的に発展させて日本政府に核兵器禁止条約を調印させる運動を全力で取り組みます。



原水禁世界大会 in・長崎の会場



# 被爆者は、すみやかな核兵器廃絶を願い、 核兵器を禁止し廃絶する条約を結ぶことを、 すべての国に求めます。

人類は今、破滅への道を進むのか、命輝く青い地球を目指すのか岐路に立たされています。

1945年8月6日と9日、米軍が投下した2発の原子爆弾は、一瞬に広島・長崎を壊滅させ、数十万の人びとを無差別に殺傷しました。真っ黒に焦げ炭になった屍、ずるむけのからだ、無言で歩きつづける人びとの列。生き地獄そのものでした。生きのびた人も、次から次と倒れていきました。70年が過ぎた今も後障害にさいなまれ、子や孫への不安のなか、私たちは生きぬいてきました。もうこんなことは、たくさんです。

沈黙を強いられていた被爆者が、被爆から11年後の1956年8月に長崎に集まり、日本原水爆被害者団体協議会（日本被団協）を結成しました。そこで「自らを救い、私たちの体験を通して人類の危機を救おう」と誓い、世界に向けて「ふたたび被爆者をつくるな」と訴えつづけてきました。被爆者の心からの叫びです。

しかし、地球上では今なお戦乱や紛争が絶えず、罪のない人びとが命を奪われています。核兵器を脅迫に使ったり、新たな核兵器を開発する動きもあります。現存する1万数千発の核兵器の破壊力は、広島・長崎の2発の原爆の数万倍にもおよびます。核兵器は、人類はもとより地球上に存在するすべての生命を断ち切り、環境を破壊し、地球を死の星にする悪魔の兵器です。

人類は、生物兵器、化学兵器について、使用、開発、生産、保有を条約、議定書などで禁じて来ましたが、それらをはるかに上回る破壊力をもつ核兵器を禁じることに何のためらいが必要でしょうか。被爆者は、核兵器を禁止し廃絶する条約を結ぶことを、すべての国に求めます。

平均年齢80歳を超えた被爆者は、後世の人びとが生き地獄を体験しないように、生きている間に何としても核兵器のない世界を実現したいと切望しています。あなたとあなたの家族、すべての人びとを絶対に被爆者にしてはなりません。あなたの署名が、核兵器廃絶を求める何億という世界の世論となって、国際政治を動かし、命輝く青い地球を未来に残すと確信します。あなたの署名を心から訴えます。

2016年4月

よびかけ被爆者代表：坪井直、谷口稜暉、岩佐幹三（以上、日本原水爆被害者団体協議会（日本被団協）・代表委員）、田中熙巳（日本被団協・事務局長）、郭貴勲（韓国原爆被害者協会・名誉会長）、向井司（北米原爆被害者の会・会長）、森田隆（ブラジル被爆者平和協会・会長）、サーロー・セツコ（カナダ在住）、山下泰昭（メキシコ在住）

## 私は被爆者の訴えに賛同して署名します

名前	住所	募金

ご記入いただいたお名前や住所など個人情報は、この要請目的以外には使用しません。みなさんの署名は、毎年の国連総会に提出いたします。

【取扱団体】

**原水爆禁止日本協議会**

〒113-8464 東京都文京区湯島2-4-4 ☎03-5842-6031